

3 各水系の概要

本県の大半の河川は、那珂川、鬼怒川・小貝川及び渡良瀬川の三大水系に分けられ、その流域は、県土のほぼ3分の1ずつに等分される。

これらの河川の水質は、流域の産業活動や土地利用の形態などにより異なり、各水系の水質を特徴づけている。

(1) 那珂川水系の水質(表2-13、図2-3)

那珂川水系に属する河川の15水域における環境基準類型指定状況はAA又はA類型で、他水系に比較し、水質的に良好な河川が多い。

環境基準達成状況をBODでみると、14水域で環境基準を達成しており、達成率は93%で前年度と変わらなかった。

表2-13 那珂川水系の環境基準達成状況

I 環境基準を達成した水域

類型	水域名	環境基準地点	適合率 (%)	75%値 (mg/ℓ)	平均値 (mg/ℓ)	5年間平均値 (mg/ℓ)
AA	那珂川(1) 高雄股川	恒明橋	92	0.6	0.6	0.9
		高雄股橋	75	0.8	0.7	0.9
A	那珂川(2)	新那珂橋	100	1.1	0.9	1.0
		野口	100	0.9	0.9	0.9
		湯川	100	1.0	0.9	1.1
		余笹川	100	0.6	0.7	1.2
		黒川	100	0.8	0.7	1.2
		松葉川	100	0.8	0.7	1.2
		箒川	100	<0.5	0.7	1.3
		蛇尾川	100	0.6	0.6	1.0
		武茂川	100	0.9	0.8	1.7
		荒川	92	0.9	0.9	1.1
		内川	100	1.3	1.0	1.4
		逆川	100	1.1	1.0	1.3
		押川	100	0.5	0.6	0.9
		計	水域数		14	(14)
構成比			93 %	(93%)		

II 環境基準を達成しない水域

類型	水域名	環境基準地点	適合率 (%)	75%値 (mg/ℓ)	平均値 (mg/ℓ)	5年間平均値 (mg/ℓ)
A	江川	末流	67	2.3	1.6	2.0
計	水域数		1	(1)		
	構成比		7 %	(7%)		

(注) 1 環境基準点において、BODの75%値が当該水域の環境基準に適合している場合を環境基準達成水域とした。

2 適合率=

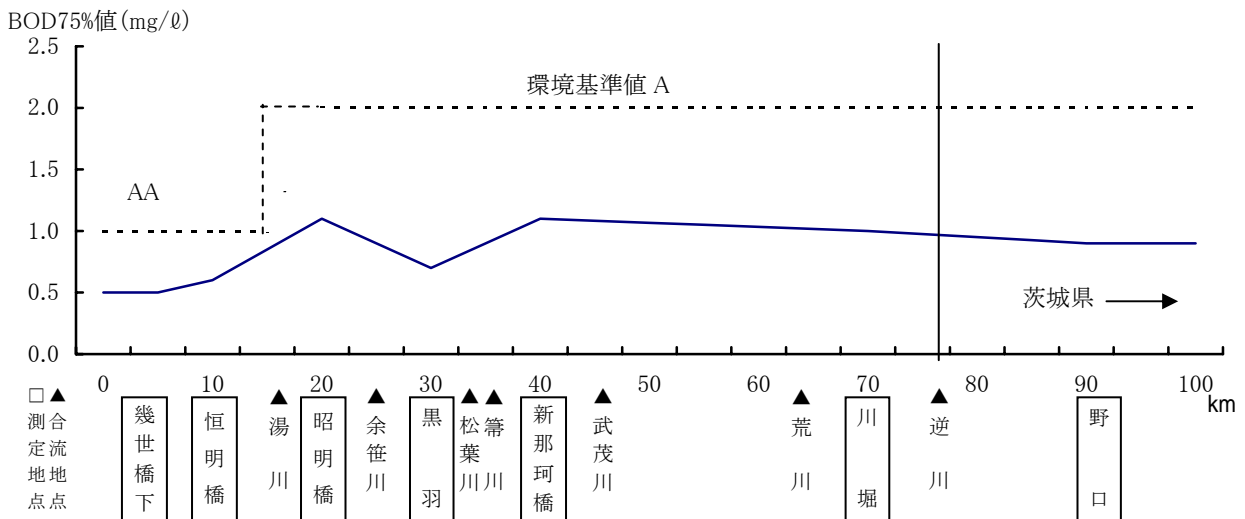
環境基準適合検体数/調査実施検体数×100

3 5年間平均とは、13～17年度の75%値の平均値である。

4 計欄の()は前年度を示す。

那珂川本川の水質流程変化をBODを指標としてみると、全域ともほぼ良好な水質を維持している。

図2-3 那珂川の水質流程変化(BOD75%値)



(2) 鬼怒川・小貝川水系の水質(表2-14、図2-4)

鬼怒川・小貝川水系に属する河川の水質の20水域における環境基準類型指定状況は、上流域のAA類型から下流域のC類型までの4類型である。

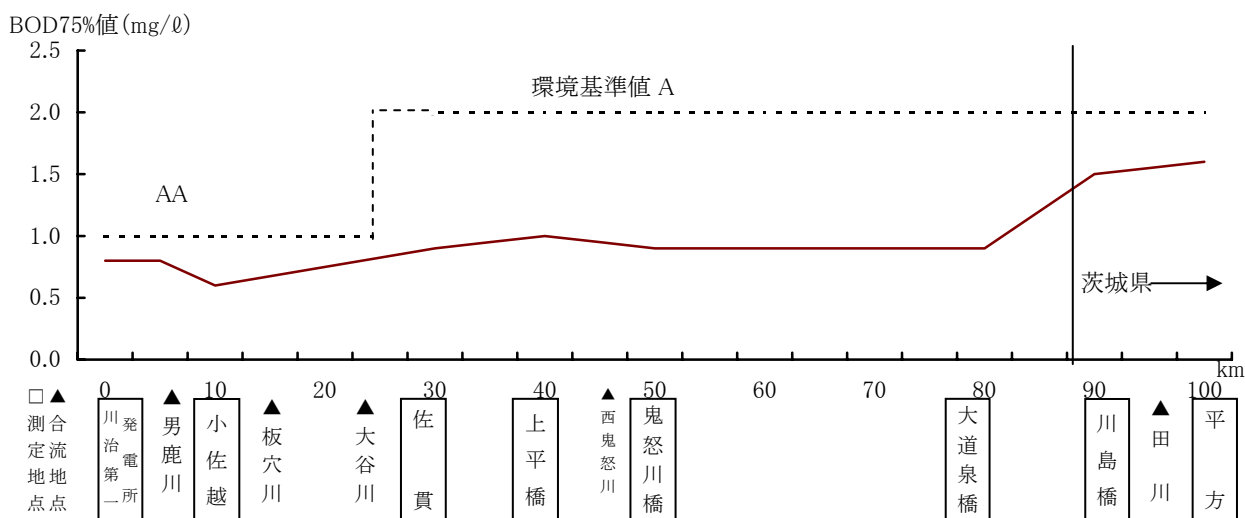
環境基準達成状況をBODでみると、19水域で環境基準を達成しており、達成率は95%で前年度より上昇した。

表2-14 鬼怒川・小貝川水系の環境基準達成状況

I 環境基準を達成した水域							II 環境基準を達成しない水域						
類型	水域名	環境基準地	適合率 (%)	75%値 (mg/ℓ)	平均値 (mg/ℓ)	5年間平均値 (mg/ℓ)	類型	水域名	環境基準地	適合率 (%)	75%値 (mg/ℓ)	平均値 (mg/ℓ)	5年間平均値 (mg/ℓ)
AA	鬼怒川(1)	川治第一発電所前	92	0.8	0.7	0.7	C	田川中流	明治橋	58	5.6	3.6	5.5
	男鹿川	末流	96	0.5	0.5	0.6							
	板穴川	末流	83	1.0	0.8	1.1	計	水域数	1	(4)			
	大谷川	開進橋	83	0.7	0.7	0.9					構成比	5%	(20%)
A	鬼怒川(2)	鬼怒川橋	100	0.9	0.9	1.1	(注) 1 環境基準点において、BODの75%値が当該水域の環境基準に適合している場合を環境基準達成水域とした。 2 適合率= 環境基準適合検体数/調査実施検体数×100 3 5年間平均とは、13～17年度の75%値の平均値である。 4 計欄の()は前年度を示す。						
		川島橋	100	1.5	1.1	1.3							
	湯川	末流	92	1.0	0.9	1.2							
	西鬼怒川	西鬼怒川橋	100	1.1	0.9	1.1							
	江川下流	末流	100	1.3	1.0	1.5							
	田川上流	大曾橋	75	2.0	1.3	1.9							
	赤堀川	木和田島	100	1.2	1.0	1.2							
	小貝川	三谷橋	93	1.2	1.1	1.4							
	五行川	桂橋	100	1.2	1.0	1.5							
	野元川	末流	92	1.0	0.9	1.3							
	行屋川	常盤橋	92	1.5	1.5	1.6							
B	志渡沢川	筋違橋	100	2.0	1.6	2.3							
	江川上流	高宮橋	92	1.7	1.5	2.1							
	田川下流	梁橋	92	2.3	2.2	3.5							
C	御用川	錦中央公園	75	5.0	4.6	7.4							
	釜川	つくし橋	100	2.7	1.8	2.4							
計	水域数		19	(16)									
	構成比		95%	(80%)									

鬼怒川本川の水質流程変化をBODを指標としてみると、1.0mg/ℓ前後で推移しており、全域ともほぼ良好な水質を維持している。

図2-4 鬼怒川の水質流程変化(BOD75%値)



(3) 渡良瀬川水系の水質(表2-15、図2-5)

渡良瀬川水系に属する河川の29水域における環境基準類型指定状況は、上流域のAA類型から下流域のD類型までの5類型にわたっている。

環境基準達成状況をBODでみると、22水域で達成し、達成率は76%で前年度と変わらなかった。

表2-15 渡良瀬川水系の環境基準達成状況

I 環境基準を達成した水域

類型	水域名	環境基準地点	適合率 (%)	75%値 (mg/ℓ)	平均値 (mg/ℓ)	5年間平均値 (mg/ℓ)	
AA	大 芦 川	赤 石 橋	100	<0.5	0.5	0.88	
A	渡良瀬川上流	沢入発電所渡良瀬川取水堰	100	0.8	0.8	1.2	
	神子内川	末 流	100	0.6	0.7	0.96	
	松田川上流	新松田川橋	100	0.7	0.6	1.0	
	旗川上流	高 田 橋	100	1.2	0.9	1.3	
	才 川	末 流	100	1.6	1.2	1.5	
	秋山川上流	小 屋 橋	100	<0.5	0.5	0.90	
		堀 米 橋	92	1.6	1.2	1.5	
	永野川上流	星 野 橋	100	0.6	0.6	1.0	
		大 岩 橋	100	<0.5	0.6	1.1	
	思川上流	保 橋	100	0.6	0.6	1.0	
	黒 川	御 成 橋	100	1.0	0.8	1.5	
	B	渡良瀬川(2)	葉 鹿 橋	100	1.0	0.9	1.1
		渡良瀬川(3)	渡良瀬大橋	92	2.3	1.7	2.1
小俣川下流		末 流	83	2.9	2.5	3.0	
袋川上流		助 戸	100	2.1	1.8	2.7	
旗川下流		末 流	75	2.7	1.8	2.7	
出流川		末 流	92	2.8	2.1	3.5	
巴波川下流		巴 波 橋	88	2.3	2.0	2.3	
永野川下流		落 合 橋	83	1.6	2.0	2.2	
思川下流		乙女大橋	100	1.6	1.2	1.8	
姿 川		宮 前 橋	92	1.7	1.6	2.2	
西仁連川	武 井 橋	83	2.5	2.1	3.1		
C	矢 場 川	矢場川水門	83	4.4	3.3	4.4	
計	水域数		22	(22)			
	構成比		76 %	(76%)			

II 環境基準を達成しない水域

類型	水域名	環境基準地点	適合率 (%)	75%値 (mg/ℓ)	平均値 (mg/ℓ)	5年間平均値 (mg/ℓ)
A	小俣川上流	新上野田橋	50	3.4	4.1	3.6
B	渡良瀬川(4)	三 国 橋	67	3.8	2.5	3.1
	松田川下流	末 流	17	11	8.4	11
	三 杉 川	末 流	50	3.6	2.8	3.8
C	秋山川下流	末 流	58	7.5	5.8	6.1
	巴波川上流	吾 妻 橋	25	8.7	7.6	8.2
D	袋川下流	袋川水門	50	12	8.1	9.6
計	水域数		7	(7)		
	構成比		24 %	(24%)		

(注) 1 環境基準点において、BODの75%値が当該水域の環境基準に適合している場合を環境基準達成水域とした。

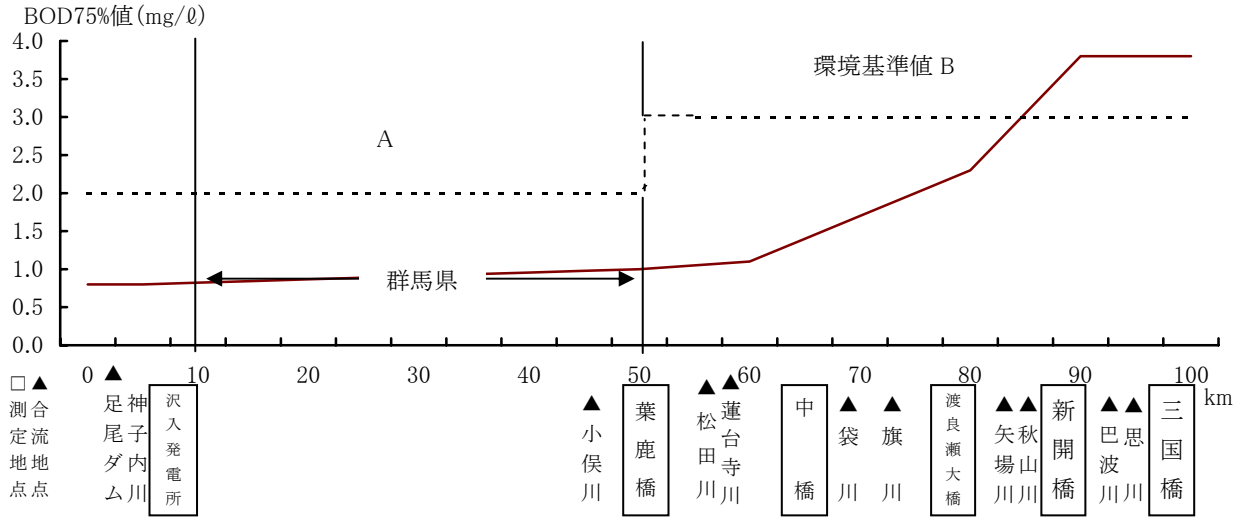
2 適合率=

環境基準適合検体数/調査実施検体数×100
3 5年間平均とは、13～17年度の75%値の平均値である。

4 計欄の()は前年度を示す。

渡良瀬川本川の水質流程変化をBODでみると、上流域では比較的良好な水質を示しているが、新開橋(藤岡町)付近は高い傾向となっている。

図2 - 5 渡良瀬川の水質流程変化(BOD75%値)



また、渡良瀬川上流域における公害の未然防止を図るため、県では下記の地点において水質の監視を実施している。平成17年度の測定結果については、すべて環境基準値を下回った。

- (1) 足尾発電所渡良瀬川導水路トンネル入口及び出口
pH、銅及びひ素について毎週1回測定した。
- (2) 沢入発電所渡良瀬川取水堰
pH、銅、ひ素、亜鉛、鉛、カドミウムについて、4月及び10～3月は毎月2回、かんがい期(5月11日～9月30日)は毎日測定した。

図2 - 6 渡良瀬川のかんがい期平均値経年変化(銅)

